

海洋観測の現状と展望

—地球環境科学への貢献—

平成26年 **11月20日** (木)

千代田放送会館ホール

13:00~17:00

写真:
気象庁提供「啓風丸」

主催 地球温暖化観測推進事務局/環境省・気象庁

後援 内閣府(予定)、文部科学省(予定)、海上保安庁、(独)海洋研究開発機構、(独)水産総合研究センター、(独)国立環境研究所 地球環境研究センター

参加 要事前登録 無料

地球温暖化を予測し、人間社会や生態系への温暖化の影響を評価する上で、海洋の実態を解明することは非常に重要です。例えば、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書では、大気だけでなく海洋も温暖化していることや二酸化炭素濃度の増加によって海洋が酸性化していることなどが報告されています。また、世界平均気温の停滞現象(ハイエイタス)の原因として、熱が海洋に再分配されている可能性も指摘されており、海洋観測データの重要性が高まっています。

観測船やアルゴフロート(自動的に水深2000mまでの水温・塩分等を測定する機器)を用いた海洋観測は、国際的な連携・協力のもとに進められており、また、観測データのアーカイブ等についても、国際的な連携の枠組みが構築されています。

今回のワークショップでは、海洋観測の現状と成果、観測データのアーカイブの状況、観測とモデルの連携の視点も含めて海洋観測の最近の動向と今後の展望をご紹介します。

プログラム

13:00 ~ 13:10	開会挨拶 (環境省) (司会:藤谷 徳之助 地球温暖化観測推進事務局)
	基調講演
13:10 ~ 13:50	■「地球環境科学をささえる海洋観測 —現状と展望—」…深澤 理郎(海洋研究開発機構)
	講演
13:50 ~ 14:20	■「気象庁の定線観測の半世紀 —変動のシグナルを求めて—」…宮尾 孝(気象庁)
14:20 ~ 14:50	■「海上保安庁における海洋観測業務」…寄高 博行(海上保安庁)
14:50 ~ 15:20	■「水産試験研究機関における海洋モニタリング」…清水 学(水産総合研究センター中央水産研究所)
15:20 ~ 15:30	(休憩)
15:30 ~ 16:00	■「もうひとつの二酸化炭素問題 —海洋酸性化—」…野尻 幸宏(国立環境研究所)
16:00 ~ 16:30	■「海洋モデルの現状と展望 —海洋データの統合的理解のツールとして—」…羽角 博康(東京大学大気海洋研究所)
	総合討論
16:30 ~ 17:00	■「海洋観測における今後の連携 —観測とモデルの視点から—」
17:00	閉会

日時・場所

平成26年11月20日(木) 13:00~17:00 (受付開始12:15~)

千代田放送会館ホール 東京都千代田区紀尾井町1-1 TEL:03-3238-7401

- 地下鉄赤坂見附駅(銀座線・丸の内線) 出口 **D** から徒歩約9分
- 地下鉄永田町駅(南北線・有楽町線・半蔵門線) 出口 **9a 9b 5** から徒歩約2~8分
- 地下鉄麹町駅(有楽町線) 出口 **1** から徒歩約5分

参加申込

事前登録制です。下記URLよりお申し込みください。

<http://occo.nies.go.jp/141120ws/index.html>

※定員200名 定員になり次第登録を締め切ります。

お問合せ先

地球温暖化観測推進事務局/環境省・気象庁 (OCCCO)

<http://occo.nies.go.jp/> e-mail: occo-ws14@nies.go.jp

TEL:029-850-2980 FAX:029-858-2645

